

2 職 員

事務局職員等の名簿は次のとおりである。

教育長及び事務局各課室所館長名

職 名	氏 名	就任年月日
教 育 長	佐 藤 光	昭和32, 6, 6
教 育 次 長	大 槻 文 夫	33, 4, 1
秘 書 室 長	新井田 忠 雄	33, 4, 1
財 務 課 長	大 槻 文 夫	32, 1, 1
学 校 教 育 課 長	酒 井 忍	35, 4, 1
社 会 教 育 課 長	松 田 吉 与	36, 4, 1
保 健 体 育 課 長	鈴 木 勝 枝	31, 4, 16
教 育 調 査 研 究 所 長	栗 原 喜 藏	36, 4, 1
県 立 図 書 館 長	桑 原 善 作	24, 11, 15

昭和36年度の事務局職員の変動は、総数 110 名にのぼった。内訳は、退職 28 名、新任 43 名、転補 39 名である。

課長以上の異動は、中島茂（社会教育課長）が白河高等学校長へ、後任として教育調査研究所長 松田吉与が社会教育課長へ、教育調査研究所長へ、社会教育課指導係長 栗原喜藏が就任した。

出張所長の異動は、酒井、秋月、西牧の三所長が校長に復帰、大須賀、小野、星所長がそれぞれ出張所長に新任された。

さらに充て指導主事をあらたに 26 名任命し、指導の充実強化をはかった。

昭和 36 年度の職員総数は 248 名となった。

事務局出張所名一覧

所 名	所 長 名	所 在 地
信 夫 出張所	玉 川 春 雄	福島市中町27
伊 達 出張所	瀬 谷 洋 一	伊達郡桑折町桑島3の68
安 達 出張所	船 生 修 平	二本松市本町1丁目60
安 積 出張所	畠 山 武 雄	郡山市虎丸町135
岩 瀬 出張所	鈴 木 鋭 介	須賀川市西3の10
西白河 出張所	安 良 恒 三	白河市字道場小路93
東白川 出張所	星 久 好	東白川郡棚倉町城跡2の31の1
石 川 出張所	鈴 木 正 一	石川郡石川町字下泉229
田 村 出張所	堀 内 鉄 雄	田村郡三春町南町4
南会津 出張所	大須賀 正 美	南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277
北会津 出張所	辺 見 正 治	会津若松市栄町郭内1
耶 麻 出張所	小 野 丑 藏	喜多方市惣座の宮2716の2
両 沼 出張所	鈴 木 九二八	河沼郡会津坂下町西南町裏甲4005
石 城 出張所	豊 田 要 三	平市堂の前22
双 葉 出張所	西 恭 三	双葉郡富岡町大字小浜字駅106
相 馬 出張所	高 木 百 枝	相馬市中村北町91

3 教育広報

② 対 象

教育月報は主として学校、市町村教育委員会を対象とし、広く PTA、民間団体をも考慮する。

③ 取材内容

- (ア) 県教育行政に関するもの
- (イ) 教育指導内容に関するもの
- (ウ) 各種教育行事の紹介と結果の報告
- (エ) 現場の教育活動の状況

④ 編集要領

- (ア) 年10回発行 1回2,000部
- (イ) 各月毎に主題をもうけ統一ある記事とする
- (ウ) 写真による広報8ページ、本文8ページ、計16ページとする
- (エ) 無償配布

36年度から教育委員会の広報事務が教育調査研究所から秘書室へ移管された。

昭和36年度の県教委の広報活動の概況は次のとおりであった。

(1) 教育月報

① 編集方針

- (ア) 県教育委員会の行政施策について県下の教育関係者に周知させ、教育行政の円滑な運営に資する
- (イ) 県教育委員会の行政施策に関する諸問題について県下教育活動の実態を通じて適時取材し、これを広く紹介して現場各校の教育の向上に資する
- (ウ) 世論調査および読者の希望を尊重し、よく活用される広報紙とする。